

成城教育

第192号

2021年9月30日

特集 往復書簡 I



成城学園教育研究所

「表紙」のことば

幼稚園 喜谷紗理

今回の表紙は、幼稚園の年長組が水墨画に挑戦した時の作品です。日本で昔から使われている画材の良さを感じてもらいたいと思い、和紙の触感や墨の香りなどを感じられる活動にしました。和紙に墨汁で輪郭を描き、乾いてから薄めに溶いた水彩絵の具で色を付けました。墨汁は初めて使う子もいたようで、「不思議な匂い」とじつくり香りを嗅いだり、描いた瞬間にじんわりと和紙に色がにじみ、広がっていく様子を楽しんでいました。また、しばらく墨汁を付けずに筆を使っていると、段々描く線がかすれていくことに気が付き、それを作品の味として生かしていこうとする姿もありました。

表紙の絵を描いた子どものお話によると、この場面は「先生が公園を散歩しているところ」だそうです。描いてみた感想を聞いたところ「お花を描くのど、絵の具で色を塗るのが楽しかった」と答えてくれました。ちなみにこの絵の中で一番気に入っているところは、「綺麗な色になった紫（左側）のお花」だそうです。周りに鮮やかな色の花や木、太陽や雲などが描かれ、歩いている「先生」の口元が微笑んでいることから、楽しい散歩という雰囲気伝わってくる作品です。

成城教育

第 192 号

©成城学園教育研究所

◆表紙：幼稚園年長 ちゅうりつぷ組 内山三久

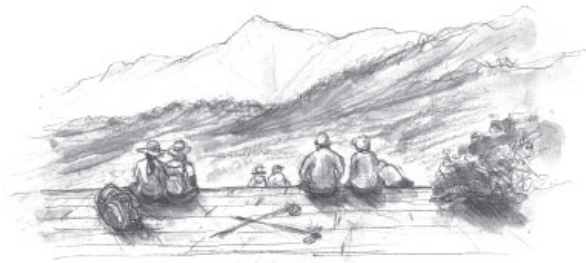
「表紙」のことは 喜谷紗理

口絵グラビア 大学九号館（旧中学校第二校舎）の風景（二〇二二年九月）

カット 下橋克則

■ 特集 往復書簡 I

特集に寄せて	木村大望	5
「海の学校」と私	酒井和也	8
今、人と関わる喜びを味わうために	齊藤綾子	13
面白おかしいスキー研修会	秋山朋也	18
初等学校「読書」担当の先生へ手紙と本にまつわるエピソード	寄口康子	22



■ 博物館と理科教育

恐竜・化石ミュージアムを活用した初等学校の取り組み

〈多様性×恐竜〉

林 聖也 27

〈成城学園から、未来力で発信しよう〉

古野 博 33

「生活部での経験から感じる中高生の課題」

小西 聡 39

帰る場所

杉崎友梨 44

つつきーへ

高田里々子 46

《大学研究室から》 前代未聞の一年間

外池 昇 49

《ずいひつ》 昨年度の休校を振り返って

工藤尋大 54

教室の風景

「児童の内より起こる活動性が発揮されるカリキュラム

〈もっともっとのエネルギーに応えられる数学授業〉」

初等学校数学部 58

二〇一九・二〇年度 教育研究所研究助成報告書要旨

「もうひとつの学校のあり方」を探る―その自治のあり方と学校・教師像

森 俊二 85

新『映画で見る成城学園』 Vol. 1 高田雅彦 91

教育研究所報

学力調査について 岩田一正 95

教育研究所への階段 167 堤 雄志 99

編集後記 101